

令和 5 年

火災と救急・救助の概要



三木市消防本部

目 次

[火災概要]

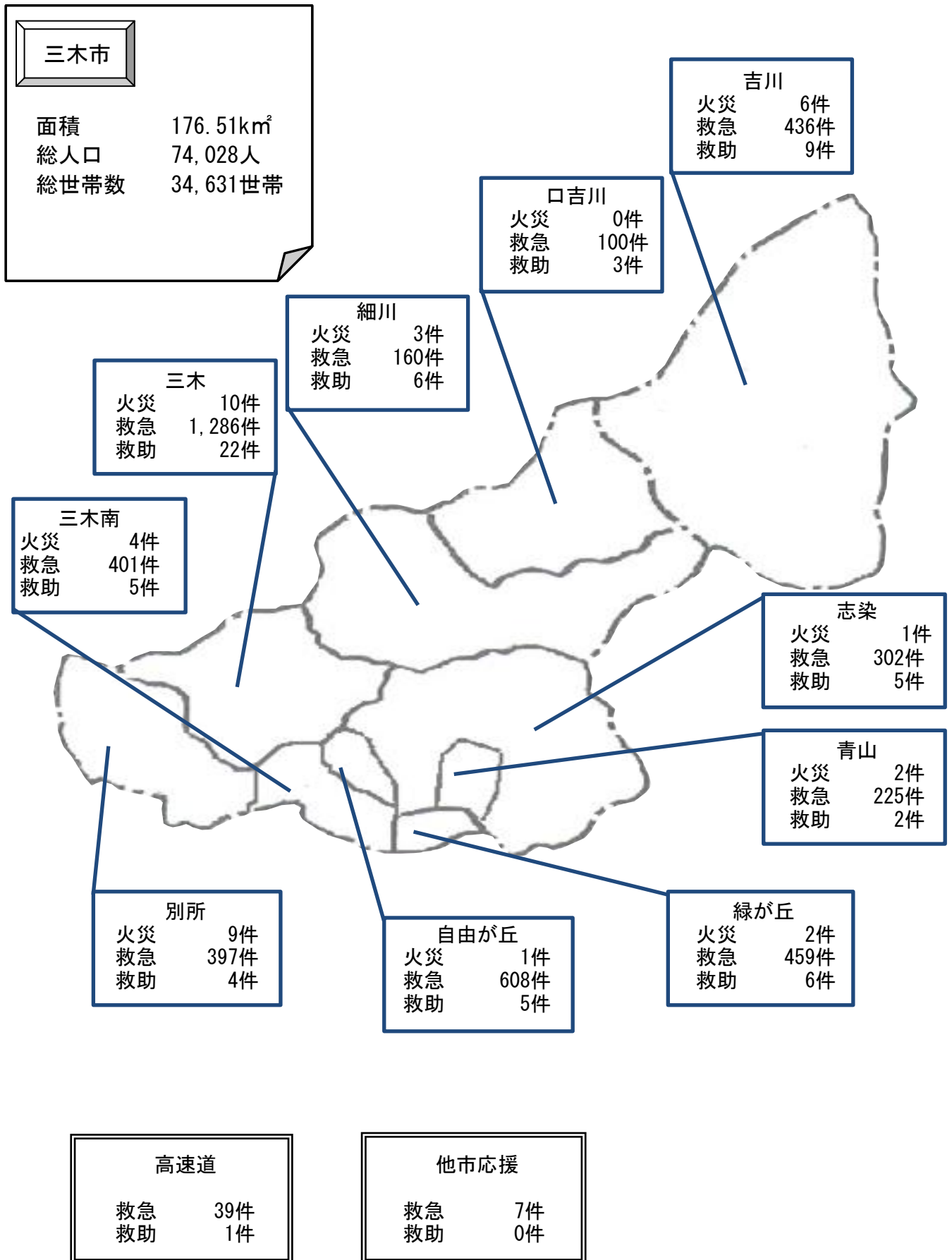
地区別発生件数	… 1	火災による損害額(5年間)	… 8
令和5年中の火災概要	… 2~3	管内出火件数・	
火災概要(対前年比)	… 4	損害額の推移(5年間)	… 8
地区別出火件数	… 5	出火原因別件数	… 9
月別火災種別出火件数	… 5	初期消火の状況	… 9
四季別出火件数	… 6	火災による死者数(10年間)	… 10
月別出火件数(5年間)	… 6	主な火災発生状況	… 10
曜日別出火件数	… 6	高速道路における火災発生状況	… 11
時間別出火件数	… 7	消防部隊出動状況(対前年比)	… 11
署別出火件数	… 7		

[救急・救助概要]

令和5年中の救急・救助概要	… 12~14	事故種別救急搬送人員	… 19
救急出場件数	… 15	傷病程度別救急搬送人員	… 19
発生地区別出場件数	… 15	発生場所別救急出場件数	… 20
署別救急出場件数	… 15	事故種別年齢別搬送人員	… 20
救急出場件数の推移	… 16	性別科目別搬送人員	… 20
事故種別救急出場件数	… 16	高速道路における救急活動状況	… 21
月別救急出場件数	… 17	応急処置件数	… 21
曜日別救急出場件数	… 17	救助出動状況	… 22
時間別救急出場件数	… 18	地区別救助出動件数	… 22
現場到着所要時間別救急出場件数	… 18	発生場所別救助出動件数	… 22
病院収容所要時間別搬送人員	… 19		

地区別発生件数

〔人口・世帯数については
令和5年12月末現在〕



令和5年中の火災概要

1. 概況

令和5年中の出火件数は38件で、損害額は21,822千円(調査中5件を除く)、建物焼損床面積325㎡、林野焼損面積21a、り災世帯8世帯、り災人員18人となっています。

2. 出火件数

(1) 出火件数

出火件数は38件(前年比9件減)で、9.6日に1件の割合で発生しています。

出火率(人口1万人当りの出火件数)は5.13ポイント(前年比1.15ポイント減)となっています。

(2) 火災種別毎の出火件数

その他火災17件(45%、前年比7件増)が最も多く、次いで建物火災13件(34%、前年比10件減)、車両火災7件(18%、前年比1件増)、林野火災1件(3%、前年比7件減)となっています。

建物火災の内訳は、住宅4件、工場2件、その他建物7件となっています。

(3) 死者・負傷者

令和5年中の火災による死者はなく(前年比4人減)、負傷者は6人(前年比増減なし)となっています。

(4) 焼損棟数

焼損棟数は20棟(前年比31棟減)で、全焼棟数は4棟(前年比23棟減)となっています。

(5) り災世帯・り災人員

り災世帯は8世帯(前年比7世帯減)で、り災人員は18人(前年比11人減)となっています。

(6) 焼損面積

建物焼損床面積は325㎡(前年比2,834㎡減)で、林野焼損面積は21a(前年比43a減)となっています。

(7) 出火原因

出火原因は、「たき火」が8件、「電灯・電話等の配線」が4件、「たばこ」が3件、「電気機器」が2件、「ストーブ」「電気装置」「溶接機・切断機」「放火」が各1件、「その他」が13件、「不明（調査中を含む）」が4件となっています。

(8) 損害額

火災による損害額は21,822千円（前年比35,714千円減）となっています。
※損害額については、調査中5件を除く。

3. まとめ

令和5年中の出火件数は38件、損害額は21,822千円、火災による死者は0人、負傷者は6人です。

火災を防ぐためには、一人ひとりが防火に対する意識を持ち、少しでも知識を身につけていただくことが大切です。

近年、たき火からの火災が多く発生しています。たき火からの火災を防ぐためには事前に水バケツなど消火用具を準備し、火気の使用中はその場を離れないようにしましょう。火を扱う行為を安易に考えず、慎重に実施していただくことが大切です。

住宅防火対策として、住宅用火災警報器が設置されていたことで、火災を早期に発見でき大事に至らなかった奏功事例もあることから、住宅用火災警報器の設置及び維持管理について啓発してまいります。

火災概要（対前年比）

出火件数は前年と比べ9件減少。火災種別ではその他火災が7件増加。建物火災10件、林野火災が7件減少しています。

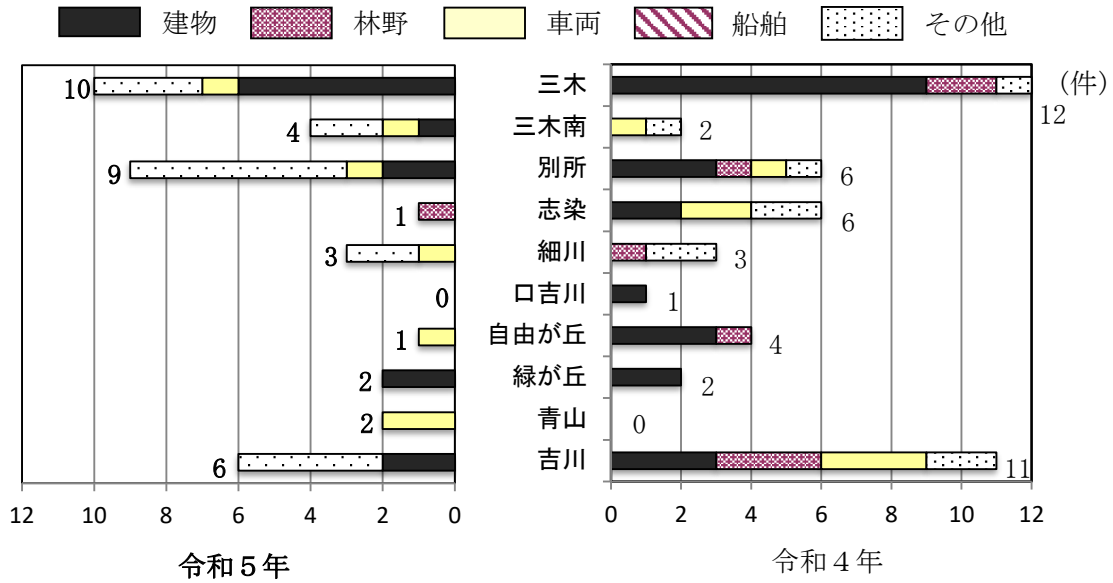
区 分	単 位	令和5年	令和4年	増 減
出 火 件 数	件	38	47	△ 9
建 物	〃	13	23	△ 10
内	住 宅	4	11	△ 7
内	工 場	2	5	△ 3
内	その他	7	7	0
林 野	〃	1	8	△ 7
車 両	〃	7	6	1
船 舶	〃	0	0	0
そ の 他	〃	17	10	7
損 害 額	千円	21,822	57,536	△ 35,714
建 物	〃	1,106	44,603	△ 43,497
内	建 物	399	25,184	△ 24,785
内	収 容 物	707	19,419	△ 18,712
林 野	〃	0	0	0
車 両	〃	12,968	10,873	2,095
船 舶	〃	0	75	△ 75
そ の 他	〃	7,748	1,985	5,763
爆 発	〃	0	0	0
建 物 焼 損 棟 数	棟	20	51	△ 31
全 焼	〃	4	27	△ 23
半 焼	〃	0	0	0
部 分 焼	〃	7	13	△ 6
ぼ や	〃	9	11	△ 2
爆 損	棟	0	0	0
車 両 等 数	台	0	0	0
建 物 床 面 積	m ²	325	3,159	△ 2,834
建 物 表 面 積	m ²	73	125	△ 52
林 野	a	21	64	△ 43
車 両	台	7	13	△ 6
船 舶	艇	0	1	△ 1
負 傷 者	人	6	6	0
死 者	〃	0	4	△ 4
り 災 世 帯	世帯	8	15	△ 7
全 損	〃	0	5	△ 5
半 損	〃	0	0	0
小 損	〃	8	10	△ 2
り 災 人 員	人	18	29	△ 11
建 物 1 件 当 り の 損 害 額	千円	85	1,939	△ 1,854
〃 焼 損 床 面 積	m ²	25	137	△ 112

※損害額については、調査中5件を除く。

△ 印は減少

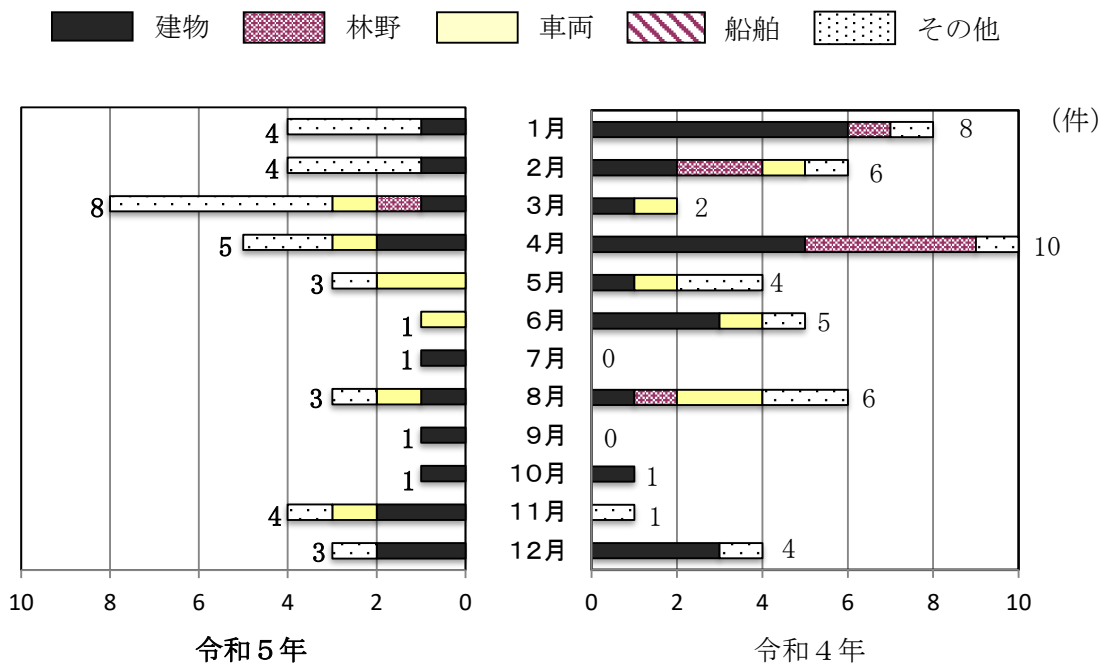
地区別出火件数

前年と比較すると、三木南地区、別所地区、青山地区が増加し、三木地区、志染地区、口吉川地区、自由が丘地区、吉川地区が減少、細川地区、緑が丘地区は増減がありませんでした。



月別火災種別出火件数

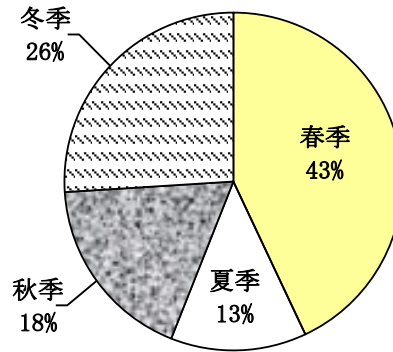
前年と比較すると、3月・7月・9月・11月が増加し、1月・2月・4月・5月・6月・8月・12月が減少、10月は増減がありませんでした。



四季別出火件数

春季(3・4・5月)	16 件
夏季(6・7・8月)	5 件
秋季(9・10・11月)	7 件
冬季(12・1・2月)	10 件
計	38 件

出火件数比率

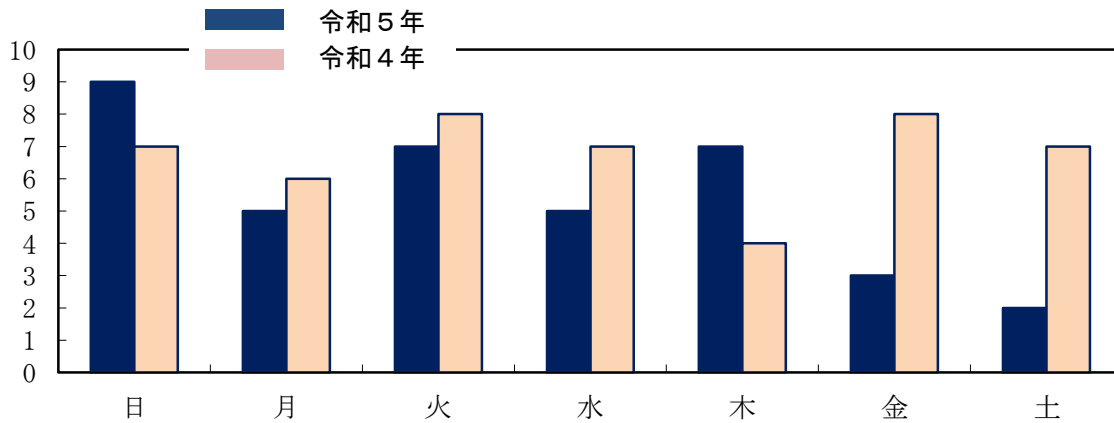


月別出火件数 (5年間)

年 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
令和5年	4	4	8	5	3	1	1	3	1	1	5	2	38
令和4年	8	6	2	10	4	5	0	6	0	1	1	4	47
令和3年	4	3	4	1	3	0	1	0	3	5	1	1	26
令和2年	4	1	2	3	5	5	0	1	2	1	1	5	30
令和元年	0	2	2	2	2	4	0	1	4	2	1	2	22

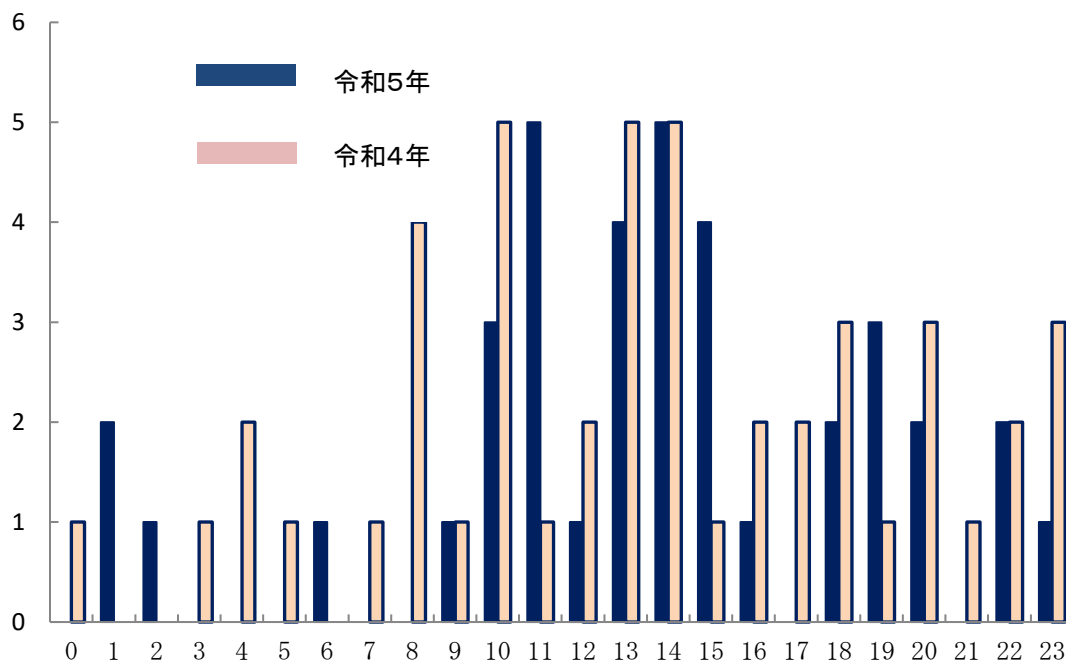
曜日別出火件数

日曜日 (9件)、火曜日・木曜日 (7件) に多く発生しています。



年 \ 曜日	日	月	火	水	木	金	土	合計
令和5年	9	5	7	5	7	3	2	38
令和4年	7	6	8	7	4	8	7	47

時間別出火件数



年 \ 時間	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	合計
令和5年	0	2	1	0	0	0	1	0	0	1	3	5	1	4	5	4	1	0	2	3	2	0	2	1	38
令和4年	1	0	0	1	2	1	0	1	4	1	5	1	2	5	5	1	2	2	3	1	3	1	2	3	47

署別出火件数

本署は火災件数が3件、吉川分署は6件減少し、広野分署は増減なしとなっています。

種別 \ 年	建物		林野		車両		船舶		その他		合計	
	令和5年	令和4年	令和5年	令和4年	令和5年	令和4年	令和5年	令和4年	令和5年	令和4年	令和5年	令和4年
本署	8	14	1	4	3	2	0	0	11	6	23	26
広野分署	3	5	0	1	4	1	0	0	2	2	9	9
吉川分署	2	4	0	3	0	3	0	0	4	2	6	12
合計	13	23	1	8	7	6	0	0	17	10	38	47

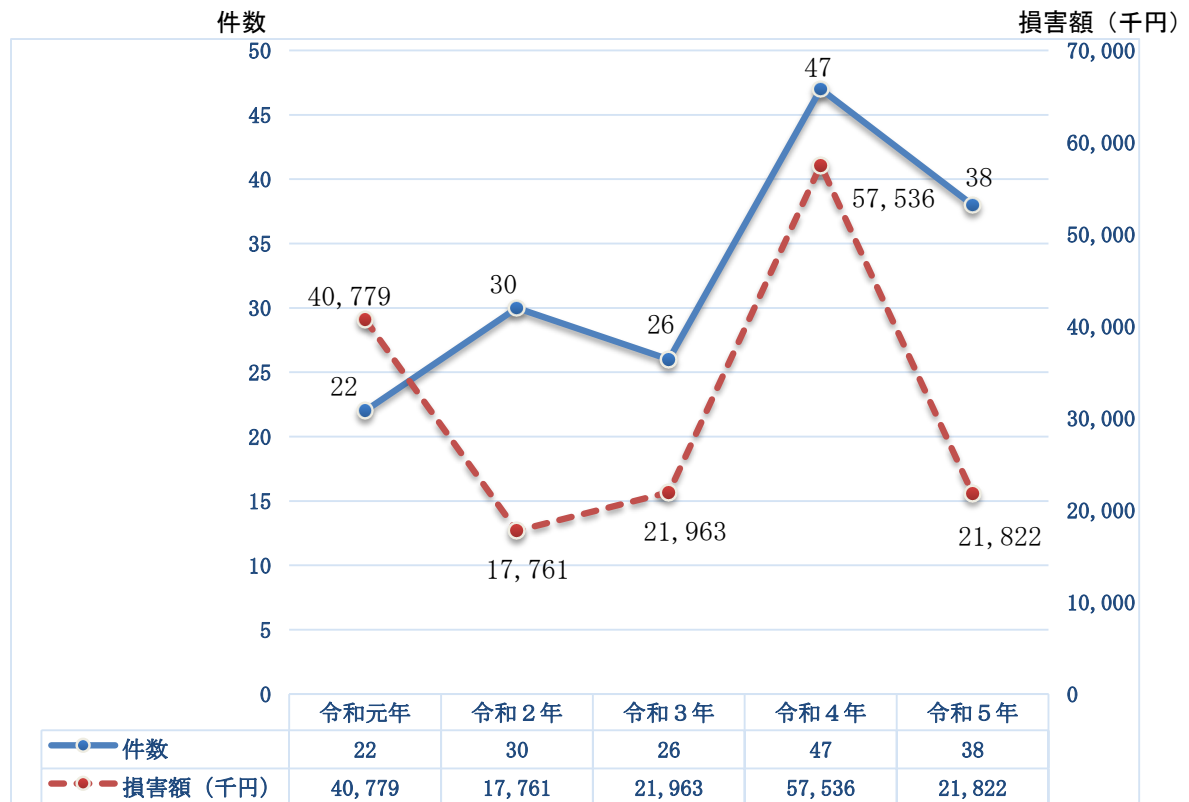
火災による損害額（5年間）

（損害額単位：千円）

項目		年	令和5年	令和4年	令和3年	令和2年	令和元年
火災損害額			21,822	57,536	21,963	17,761	40,779
内訳	建物		1,106	44,603	21,405	16,818	38,406
	林野		0	0	0	0	0
	車両		12,968	10,873	10	915	1,863
	船舶		0	75	0	0	0
	その他		7,748	1,985	548	28	510
1件当り損害額			574	1,224	845	592	1,854
出火件数			38	47	26	30	22
内訳	建物		13	23	15	10	10
	林野		1	8	3	7	4
	車両		7	6	1	4	4
	船舶		0	0	0	0	0
	その他		17	10	7	9	4

※損害額については、調査中5件を除く。

管内出火件数・損害額の推移（5年間）



出火原因別件数

出火原因は「たき火」の8件が多く、全体の約21%を占めています。

出火原因	令和5年	令和4年
たばこ	3	2
こんろ		3
風呂かまど		
炉		
焼却炉		
ストーブ	1	1
こたつ		
ボイラー		
煙突・煙道		
排気管		
電気機器	2	4
電気装置	1	1
電灯・電話等の配線	4	3
内燃機関		
配線器具		
火あそび		
マッチ・ライター		1
たき火 ※1	8	11
溶接機・溶断機	1	
灯火		
取灰		
火入れ		
放火	1	
放火の疑い		2
その他 ※2	13	6
不明(調査中含む)	4	13
合計	38	47

※1

たき火欄内訳	令和5年	令和4年
たき火	3	9
虫焼火	5	2
合計	8	11

※2

その他欄内訳	令和5年	令和4年
その他の裸火(器に入っていないもの)	1	0
バーナ	1	0
火のついた紙	1	0
粉碎枠の火花	1	0
金属との衝撃火花	1	0
炭火	1	0
ブレーキライニング	2	0
ガスフライヤー	1	0
金属粉	2	0
衝突の火花	1	0
その他移動可能な電熱器	1	0
金属とコンクリート床との衝撃の火花	0	2
摩擦熱	0	2
発炎筒	0	1
線香	0	1
合計	13	6

初期消火の状況

令和5年は38件の火災が発生し、そのうち23件で何らかの初期消火を行っています。

項目	令和5年		令和4年	
	実施	有効	実施	有効
消火器以外の消防用設備				
水バケツ	6	1	4	
消火器	8	3	9	2
水道・浴槽・汲み置きの水	3	1	7	3
寝具・衣類等をかけた	2		1	1
もみ消した	2		1	1
その他 ※	2	2	5	2
合計	23	7	27	9
初期消火なし		15		20

※ その他欄内訳 →叩き消す、用水路で転がる

火災による死者数(10年間)

年 地区	令和5年	令和4年	令和3年	令和2年	令和元年	平成30年	平成29年	平成28年	平成27年	平成26年
三木		3		1		1	1	1	1	
三木南										
別所							1			
志染										
細川			1	1			1			
口吉川										
緑が丘										
自由が丘		1								
青山										
吉川			1							
合計	0	4	2	2	0	1	3	1	1	0
兵庫県	—	65	56	53	53	72	57	54	62	70
全国	—	1,452	1,417	1,321	1,486	1,422	1,456	1,452	1,678	1,625

※令和5年の全国・兵庫県の統計について、現時点では発表されていません。

主な火災発生状況

発生日	火災種別	覚知時間	鎮火時間	発生場所	火災状況
7/30	建物	18:37	20:34	緑が丘町西4丁目	軽量鉄骨造2階建て住宅、事務所全焼、4棟が類焼

高速道路における火災発生状況

高速道路における火災は2件となっています。

発生月日	火災種別	覚知時間	鎮火時間	発生場所	火災状況
4/23	その他	16:40	16:58	山陽道上り25.5KP	植込み約10㎡及びフェンス7枚焼損。
8/24	車両	20:01	20:50	山陽道下り25.5KP	13トントラック1台が焼損

消防部隊出動状況（対前年比）

部隊出動件数は、昨年より11件増加の298件となっています。

種別	年	本署		広野分署		吉川分署		合計		増減
		令和5年	令和4年	令和5年	令和4年	令和5年	令和4年	令和5年	令和4年	
警戒		135	119	71	80	88	80	294	279	15
応援		2	2	0	0	1	2	3	4	△1
風水害		0	4	1	0	0	0	1	4	△3
合計		137	125	72	80	89	82	298	287	11

△印は減少

※「警戒」 偵察・煙火・自火報・誤報・救急支援・油処理・ガス漏洩・その他

「応援」 近隣応援(境界、管轄高速道への出動)

令和5年中の救急・救助概要

1. 概況

令和5年中の救急出場件数は4,420件（前年比40件、0.9%減）で、搬送人員は4,006人（前年比59人、1.5%減）と、いずれも昨年より減少しました。

1日の平均出場件数は12.1件（前年比0.1件減）で、市民約17人に1人が救急車を利用したことになります。

令和5年中の救助出動件数は68件（前年比12件減）となっています。

2. 救急出場件数

(1) 救急出場件数

出場件数は4,420件で、昨年より40件減少となりました。

(2) 発生地区別出場件数

三木地区の1,286件（29.1%）が最も多く、続いて自由が丘地区608件（13.8%）、緑が丘地区459件（10.4%）、吉川地区436件（9.9%）の順となっています。

(3) 事故種別出場件数

事故種別では急病2,807件（63.5%）が最も多く、続いて一般負傷779件（17.6%）、転院搬送340件（7.7%）、交通事故262件（5.9%）の順となっています。

(4) 月別・曜日別・時間別状況

月別では8月の449件が最も多く、続いて12月の425件、7月の400件の順となっています。最も少ないのは5月の320件です。

曜日別では日曜日の656件が最も多く、続いて金曜日の651件、月曜日の646件です。最も少ないのは火曜日の597件です。

時間別では11時台の321件が最も多く、続いて9時台の316件、13時台の289件です。最も少ないのは5時台の58件です。

(5) 現場到着所要時間（覚知～現場到着）

平均所要時間は8.3分（前年8.3分）、5分以上10分未満のものが2,874件（65.0%）と最も多く、続いて10分以上20分未満が1,085件（24.5%）となっています。

(6) 病院収容所要時間（覚知～病院収容）

平均所要時間は44.0分（前年43.8分）、30分以上60分未満のものが2,655件（66.3%）と最も多く、続いて20分以上30分未満が703件（17.5%）となっています。

3. 救急搬送人員

(1) 傷病程度別搬送人員

軽症2,263人（56.5%）、中等症1,587人（39.6%）、重症99人（2.5%）、死亡57人（1.4%）の順となっています。

(2) 事故種別年齢別搬送人員

急病の2,533人(63.2%)が最も多く、続いて一般負傷691人(17.2%)の順となっています。

また、年齢別では65歳以上の高齢者が2,642人(66.0%)を占めています。

(3) 性別科目別搬送人員

男性2,155人(53.8%)、女性1,851人(46.2%)で、304人男性を多く搬送しています。

内科2,139人(53.4%)が最も多く、続いて整形外科697人(17.4%)、脳神経外科632人(15.8%)の順となっています。

4. 応急処置件数

搬送人員4,006人に対して、応急処置を実施しており、応急処置件数は、延べ16,251件となっています。

血中酸素飽和度測定と血圧測定が多く、救急救命士による傷病者の蘇生等のために行う特定行為は172件(前年比3件増)となっています。

5. 救助件数

(1) 救助出動状況

出動件数は68件(前年比12件減)で、救助人員34人(前年比6人減)となっています。事故種別では、建物等による事故が38件(55.9%)と最も多く、続いて交通事故21件(30.9%)となっています。

(2) 地区別救助出動件数

三木地区が22件と最も多く、続いて吉川地区9件、細川・緑が丘地区が6件となっています。

(3) 発生場所別救助出動件数

住居での事故等が36件(52.9%)で、道路での事故が14件(20.6%)となっています。

6. 救急業務の高度化

高度救急資器材の整備に努めるとともに、気管挿管、薬剤(アドレナリン)投与、心肺機能停止前の輸液、低血糖発作傷病者へのブドウ糖投与が行える認定救命士の養成を行っています。

また、消防機関の担う救急業務の更なる高度化を実現するため、医師による指導、助言、事後検証、再教育等、メディカルコントロール体制の充実に努めています。

7. まとめ

救急出場件数は4,420件で、前年の出場件数より40件減少しました。

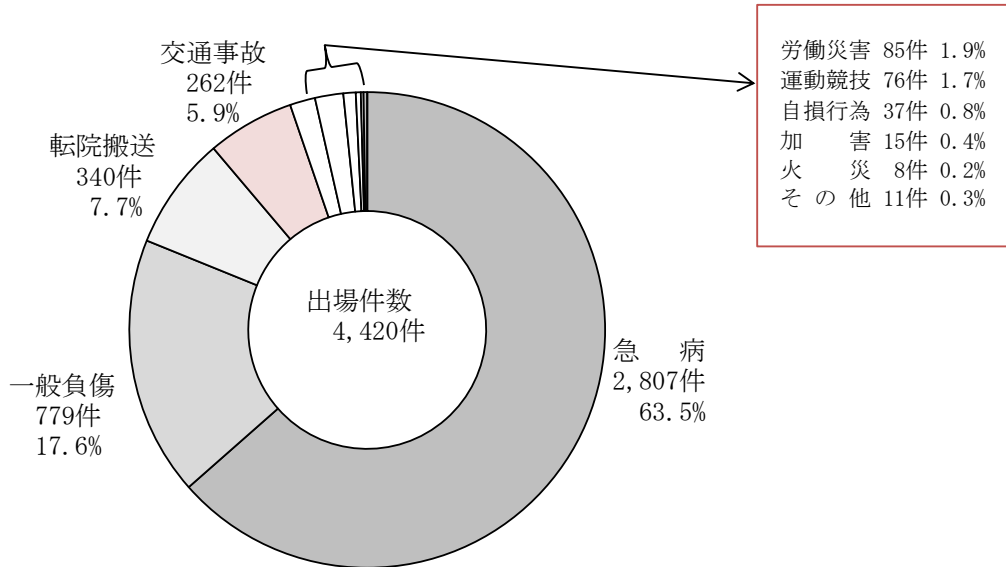
全搬送人員に占める高齢者の比率は66.0%（前年68.6%）となっています。

救命率の向上には、その場に居合わせた人による適切な心肺蘇生法と早期除細動（AED）が必要不可欠であることから、応急手当普及員の育成に努めるとともに、救急法講習会、普通救命講習、上級救命講習を継続的に開催していきます。また、広報等を通じて救急車の適正利用など救急業務への正しい理解と協力を求めてまいります。

救助出動件数については、建物等による事故が近年増加傾向にあり、過去5年間の救助出動件数372件のうち184件と全体の49.5%を占めています。主に一人暮らしの高齢者に対する安否確認による出動となっています。

救急出場件数

救急出場件数 4,420 件のうち急病が 60% 以上を占め、続いて一般負傷の順となっています。



発生地区別出場件数

三木地区が最も多く、続いて自由が丘地区となっています。

地区	令和5年	令和4年	令和3年
出場件数	4,420	4,460	3,764
三木	1,286	1,345	1,065
三木南	401	423	342
別所	397	370	373
志染	302	300	285
細川	160	149	141
口吉川	100	84	89
緑が丘	459	474	404
自由が丘	608	660	509
青山	225	186	169
吉川	436	430	353
高速道	39	33	27
その他	7	6	7

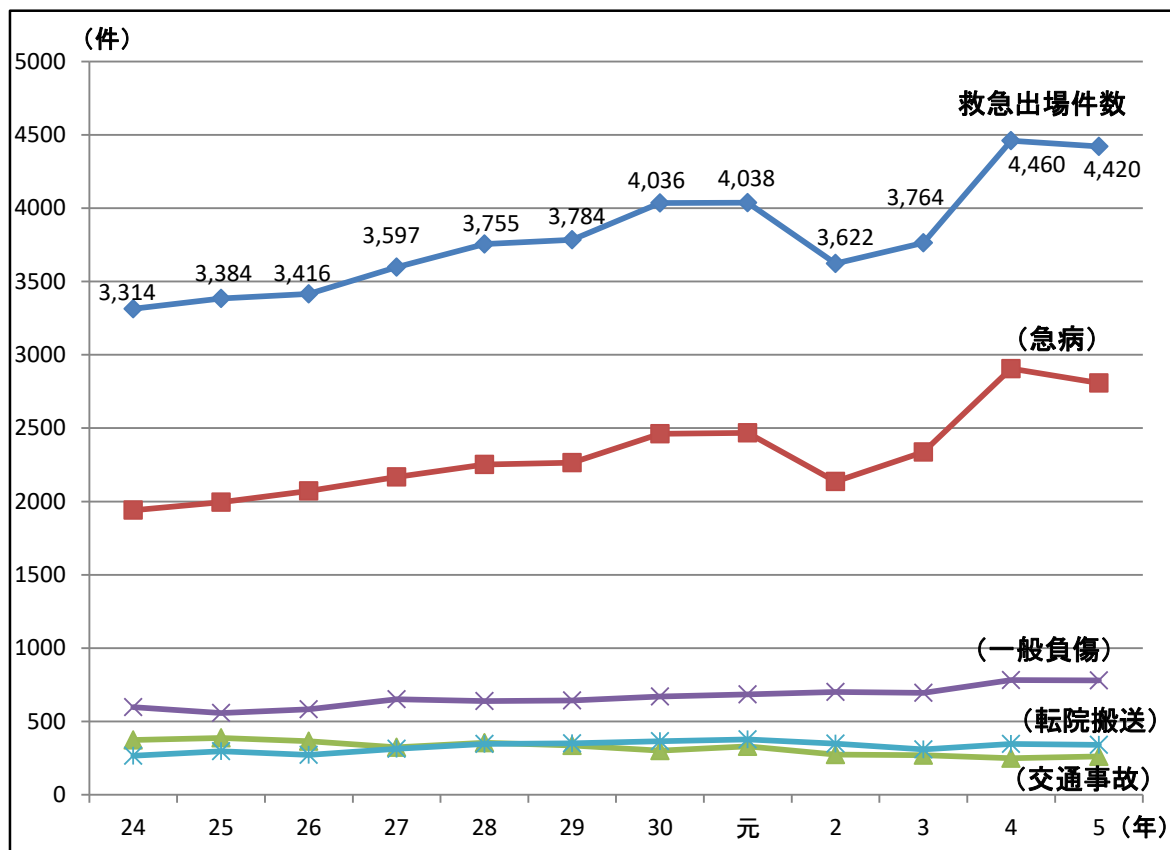
署別救急出場件数

出場割合は、本署 55.3%、広野分署 32.9%、吉川分署 11.8% となっています。

事故種別	本署	広野	吉川
火災	6	1	1
自然災害	0	0	0
水難	0	0	0
交通事故	162	60	40
労働災害	64	7	14
運動競技	42	28	6
一般負傷	436	247	96
加害	10	5	0
自損行為	19	14	4
急病	1,501	982	324
その他	202	112	37
合計	2,442	1,456	522

救急出場件数の推移

救急出場件数は4,420件で、前年比40件減少となっています。



事故種別救急出場件数

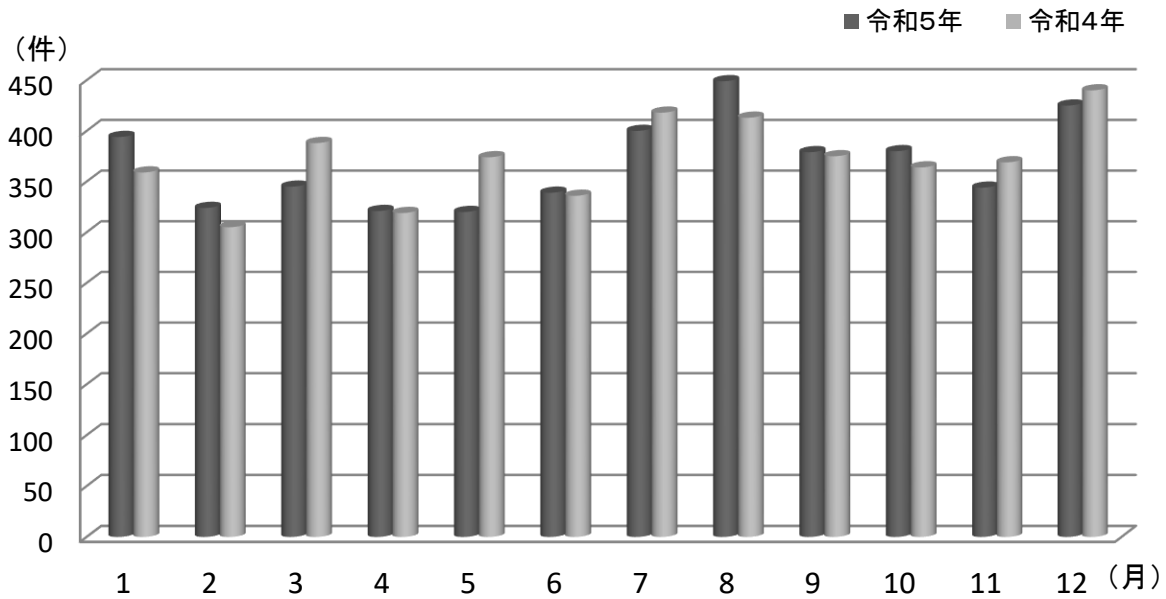
急病が昨年より99件減少しています。

事故種別	年	令和5年	令和4年	増減
火災		8	19	△11
自然災害		0	0	0
水難		0	2	△2
交通事故		262	249	13
労働災害		85	73	12
運動競技		76	29	47
一般負傷		779	782	△3
加害		15	18	△3
自損行為		37	33	4
急病		2,807	2,906	△99
その他	転院搬送	340	346	△6
	医師搬送	0	0	0
	資器材搬送	0	0	0
	その他	11	3	8
合計		4,420	4,460	△40

△印は減少

月別救急出場件数

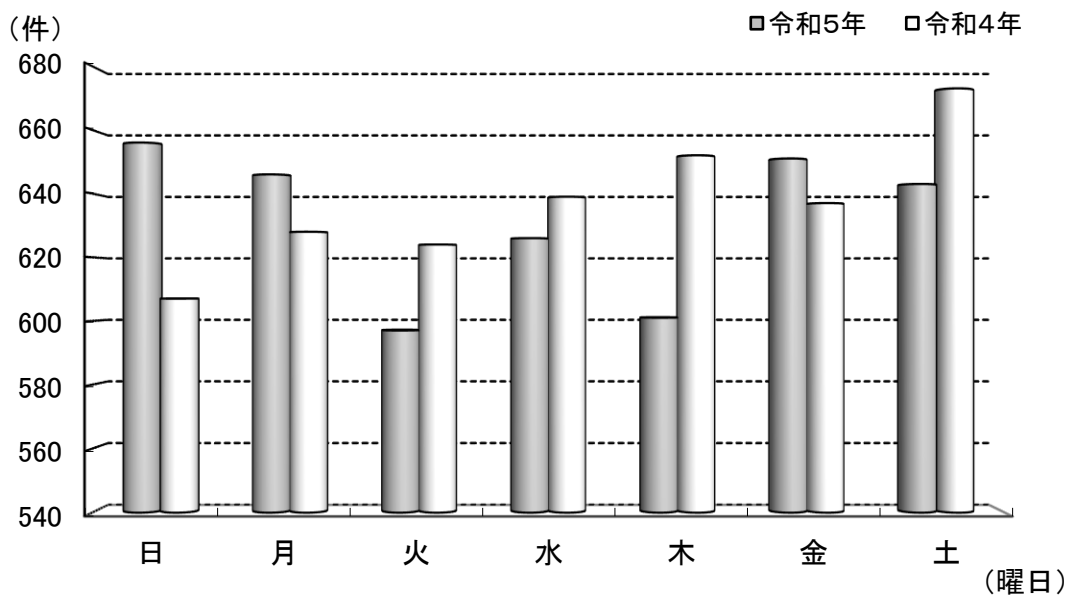
8月が最も多く、続いて12月となっています。最も少ないのは5月です。
1ヶ月平均368.3件、1日平均12.1件出場しています。



年 \ 月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
令和5年	394	324	345	321	320	339	400	449	379	380	344	425	4,420
令和4年	359	305	388	319	374	336	418	413	375	364	369	440	4,460

曜日別救急出場件数

日曜日が最も多く、続いて金曜日となっています。最も少ないのは火曜日です。

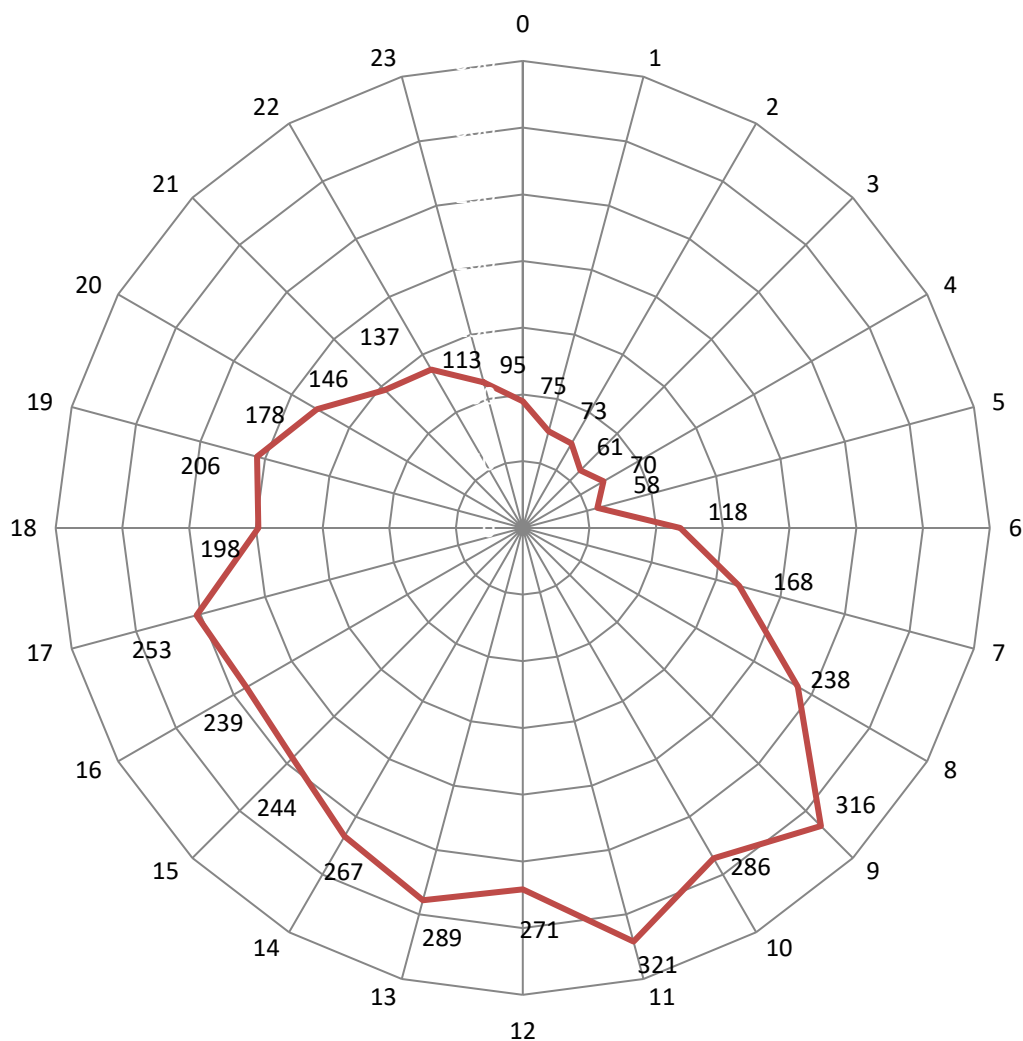


年 \ 曜日	日	月	火	水	木	金	土	合計
令和5年	656	646	597	626	601	651	643	4,420
令和4年	607	628	624	639	652	637	673	4,460

時間別救急出場件数

11時台が最も多く、最も少ないの5時台です。

救急出場件数 4,420件



現場到着所要時間別救急出場件数（覚知～現場到着）

現場到着所要時間の平均は8.3分です。5分以上10分未満で現場到着したものが2,874件で全体の65.0%を占めています。

事故種別	所要時間					計	平均時間 (分)
	3分未満	3分以上 5分未満	5分以上 10分未満	10分以上 20分未満	20分以上		
急病	13	189	1,890	666	49	2,807	8.2
一般負傷	3	51	506	205	14	779	8.5
交通事故	2	12	134	100	14	262	10.0
その他	8	95	344	114	11	572	7.7
合計	26	347	2,874	1,085	88	4,420	8.3

病院収容所要時間別搬送人員（覚知～病院収容）

病院収容所要時間の平均は44.0分で、最も多いのが30分以上60分未満の2,655人で全体の66.3%を占めています。

所要時間 事故種別	10分未満	10分以上 20分未満	20分以上 30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 120分未満	120分以上	計	平均時間 (分)
急病	0	29	487	1,703	299	15	2,533	42.6
交通事故	0	0	12	156	74	0	242	52.2
一般負傷	0	5	80	443	157	6	691	48.7
その他	0	7	124	353	53	3	540	40.9
合計	0	41	703	2,655	583	24	4,006	44.0

事故種別救急搬送人員

急病と一般負傷の減少、運動競技の増加が目立っています。

事故種別 年	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	合計
令和5年	6	0	0	242	82	74	691	13	26	2,533	339	4,006
令和4年	7	0	1	241	70	28	732	15	21	2,607	343	4,065
増減	△1	0	△1	1	12	46	△41	△2	5	△74	△4	△59

△印は減少

傷病程度別救急搬送人員

軽症2,263人（56.5%）、中等症1,587人（39.6%）、重症99人（2.5%）、死亡57人（1.4%）の順となっています。

傷病程度 事故種別	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	合計
死亡	0	0	0	2	1	0	2	0	5	47	0	57
重症	2	0	0	6	3	0	4	0	3	74	7	99
中等症	1	0	0	42	26	15	232	0	8	940	323	1,587
軽症	3	0	0	192	52	59	453	13	10	1,472	9	2,263
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	6	0	0	242	82	74	691	13	26	2,533	339	4,006

発生場所別救急出場件数

住宅内での発生が2,629件で全体の59.5%を占め、そのうち急病によるものが80.8%です。

発生場所 事故種別	住宅	公衆出入 場 所	仕事場	道路	その他	合 計
急 病	2,125	489	54	91	48	2,807
交通事故	0	8	0	252	2	262
一般負傷	452	151	7	110	59	779
そ の 他	52	432	70	7	11	572
合 計	2,629	1,080	131	460	120	4,420

事故種別年齢別搬送人員

高齢者（65歳以上）の搬送が2,642人で全体の66.0%を占めています。

年齢別 事故種別	急病	交通事故	一般負傷	その他	合 計
新生児（28日未満）	2	0	1	0	3
乳幼児（28日～6歳）	135	2	29	3	169
少 年（7歳～17歳）	95	26	17	44	182
成 人（18歳～64歳）	566	147	115	182	1,010
高齢者（65歳以上）	1,735	67	529	311	2,642
合 計	2,533	242	691	540	4,006

性別科目別搬送人員

性別では男性が多くなっています。科目別では内科が2,139人で最も多く、続いて整形外科、脳神経外科の順となっています。

科目別	外科		整形外科		脳神経外科		内科		小児科		精神神経科	
性 別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
人 員	137	79	316	381	350	282	1,161	978	118	83	4	3
科目別	産婦人科		眼科		耳鼻咽喉科		泌尿器科		その他		合 計	
性 別	女		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
人 員	13		17	1	10	7	39	18	3	6	2,155	1,851

高速道路における救急活動状況

高速道別		事故種別	急病	交通事故	一般負傷	その他	合 計
中国道	出動件数		8				8
	搬送人員		7				7
	不搬送件数		1				1
舞鶴道	出動件数						0
	搬送人員						0
	不搬送件数						0
山陽道	出動件数		20	9	2		31
	搬送人員		18	6	2		26
	不搬送件数		2	4			6
合計	出動件数		28	9	2	0	39
	搬送人員		25	6	2	0	33
	不搬送件数		3	4	0	0	7

応急処置件数

応急処置		事故種別	急病	交通事故	一般負傷	その他	合 計
応急処置対象人員(人)			2,533	242	691	540	4,006
止	血		14	8	56	15	93
被	覆		8	41	145	36	230
固	定		7	85	58	30	180
保	温		32	9	6	5	52
酸	素	吸 入	471	18	28	112	629
人	工	呼 吸				1	1
胸	骨	圧 迫	4				4
心	肺	蘇 生	83	3	3	10	99
在	宅	療 法 継 続	41		4		45
血	圧	測 定	2,440	239	677	531	3,887
聴	診	器	357	61	39	45	502
血	中	酸 素 飽 和 度 測 定	2,478	239	689	530	3,936
心	電	図 測 定	1,699	70	224	321	2,314
気	道	確 保	137	6	4	17	164
	経	鼻	1			1	2
	喉	頭 鏡 ・ 鉗 子					0
	*	ラ	47	3		6	56
	*	気	4			1	5
		以 外	85	3	4	9	101
除	細	動	10			1	11
*	静	脈 路 確 保	55	3	3	7	68
	*	う	8	1			9
	*	う	47	2	3	7	59
*	薬	剤 投 与	32	2	2	2	38
血	糖	測 定	11		1		12
*	ブ	ド	5				5
そ	の	他	2,508	240	693	540	3,981
合	計		10,392	1,024	2,632	2,203	16,251

*印は、救急救命士の特定行為

救助出動状況

出動件数68件で前年比12件減少し、救助人員についても34名で前年比6名減少しています。

年別 \ 区分	出動件数 (件)	活動件数 (件)	救助人員 (人)	出動台数 (台)	出動人員 (人)
令和5年	68	47	34	201	573
令和4年	80	50	40	233	699

地区別救助出動件数

三木地区が22件と最も多く、次に吉川地区の9件となっています。最も少ないのは青山地区の2件です。

地区 \ 種別	火災	交通事故	水難事故	機械による 事故	建物等による 事故	その他	合計	
三木	2	6			14		22	
三木南		1			3	1	5	
別所		1			3		4	
志染		2			2	1	5	
細川		2			3	1	6	
口吉川		3					3	
緑が丘	1				5		6	
自由が丘		1			4		5	
青山					2		2	
吉川	2	4			2	1	9	
管外							0	
その他		1					1	
合計	出動件数	5	21	0	0	38	4	68
	活動件数	5	11	0	0	28	3	47
	救助人員	2	15	0	0	12	5	34

発生場所別救助出動件数

住居での事故が41件で全体の60.3%を占め、次に道路での事故が14件となっています。

場所 \ 種別	火災	交通事故	水難事故	機械による 事故	建物等による 事故	その他	合計
屋内	住居	5			36		41
	その他				2		2
屋外	高速道		1				1
	道路		14				14
	池川等		1				1
	その他		3			3	6
地下							0
その他		2				1	3
合計	5	21	0	0	38	4	68